

山江村石蔵活用拠点整備基本構想

令和6年3月 山江村 企画調整課 復興村づくり推進室



山江村

目次

1. 山江村の現状	… 2
1. 基礎情報	… 3
2. これまでの経過と背景	… 7
1. 石蔵活用拠点整備に係る経緯と目的	… 8
2. 上位計画等関連計画における位置づけ	…12
3. 石蔵活用拠点整備の基本方針	…15
1. 石蔵活用拠点の目指す姿	…16
2. 石蔵活用拠点整備の方針	…17
4. 石蔵活用拠点の機能	…18
1. 産業拠点としての機能	…19
2. 住民アンケート	…23
3. にぎわい拠点としての機能	…29
5. 事業の進め方	…30
1. 石蔵活用の方向性	…31
2. 土地活用の方向性	…33
3. 事業スキームの検討	…34
4. 拠点施設の管理及び運営方法の検討	…36
5. スケジュール	…37

1 . 山江村の現状

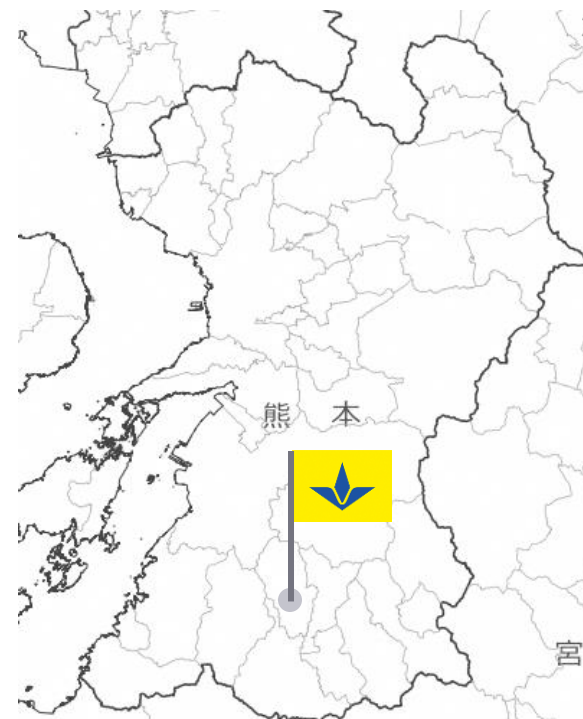
山江村は熊本県南部に位置し、人口は約3,200人、高齢化率は37.2%であり、村域の約9割は山地となっている。

山江村の概要

人口	3,207人（1,193世帯） 高齢化率37.2% ※令和6年2月末現在
面積	12,119ha（東西に9km、南北に18.6km） このうち約87%を森林、約4%を農地が占めている。
位置	熊本県南部・球磨郡に位置し、北は五木村、東は相良村、南は人吉市、西は八代市及び球磨村と隣接している。
地形	・標高1,302mの仰烏帽子岳を筆頭に、高岳1,189m、白岩山1,002m、肥後峠805m等が連なる。 ・この山岳地帯に源を発する万江川(24km)、山田川(12km)は北から南に流れ、人吉市内で日本三大急流の一つである球磨川と合流している。
アクセス	・福岡市→山江村 車：2時間30分（高速道路） ・熊本市→山江村 車：1時間20分（高速道路） ・鹿児島空港→山江村 車：50分（高速道路）

特徴

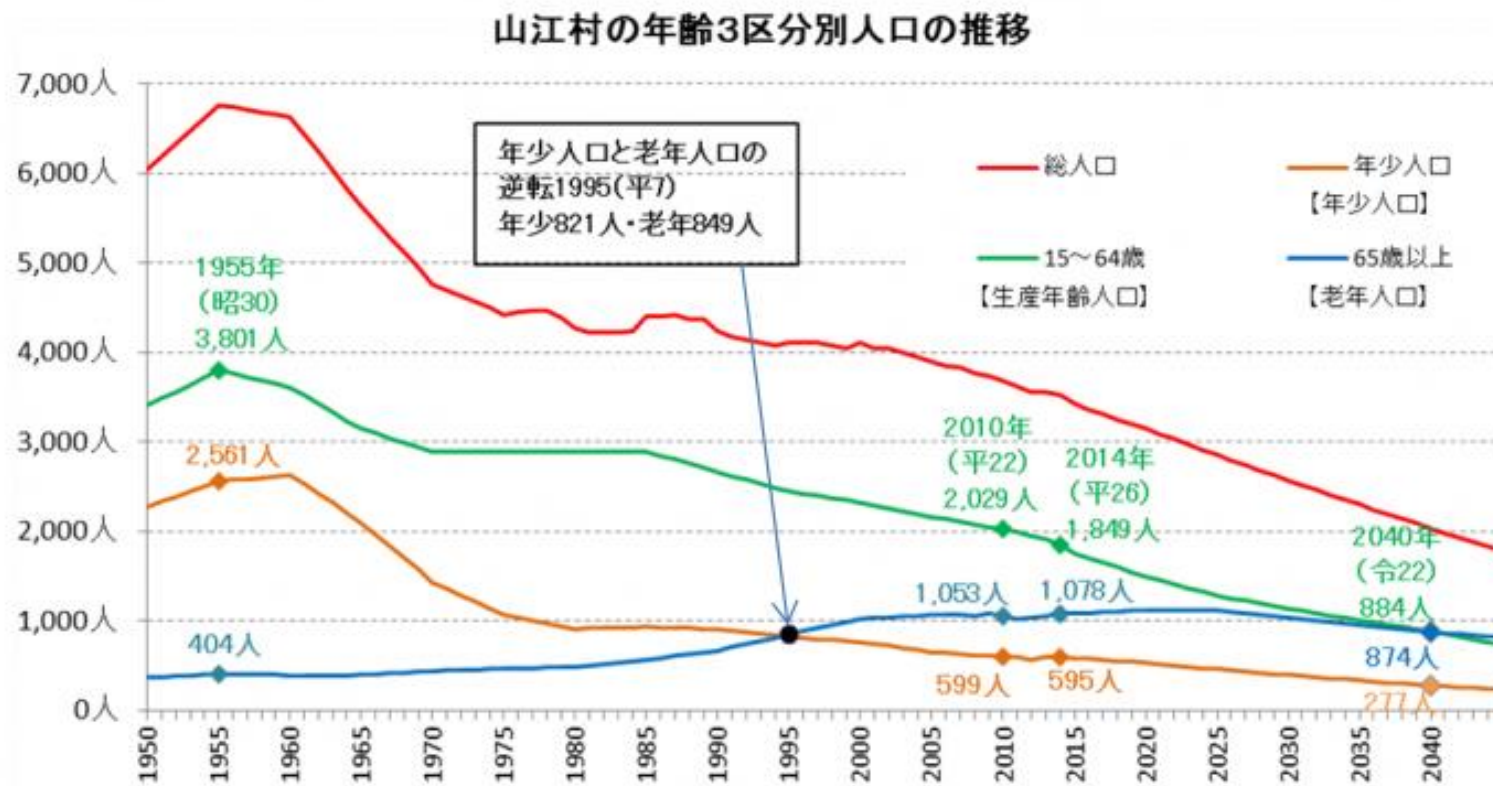
- ・主な特産品 やまえ栗
山江村では、1950年頃から栗栽培が始まったが、盆地特有の朝晩の寒暖の差、赤土の肥沃な土壤に恵まれ、高品質な栗として知られるようになった。1977年、やまえ栗が昭和天皇に献上された後、1986年には生産量が年間400トンを超え、最盛期を迎えた。
そのような中、1992年の農協合併より、一旦はやまえ栗の名称が市場から消えたが、2008年頃から、やまえ栗の再度のブランド化が加速し、2024年3月には地理的表示（GI）保護制度に「やまえ栗」として登録され、産業振興、交流の拡大等を通じてやまえ栗が村のアイデンティティとなっている。



山江村では年少人口及び生産年齢人口を中心に人口が減少し続けており、2045年には老年人口が生産年齢人口を上回ると予測されている。

人口推移

- 山江村では人口が減少し続けており、将来的に2015年時点で3,422人、2020年時点で3,238人だった人口は2040年には2,035人まで減少すると推計されている
- 生産年齢人口・年少人口の減少傾向が続く一方で老年人口の比率が上昇し、2045年には老年人口が生産年齢人口を上回ると推計されている



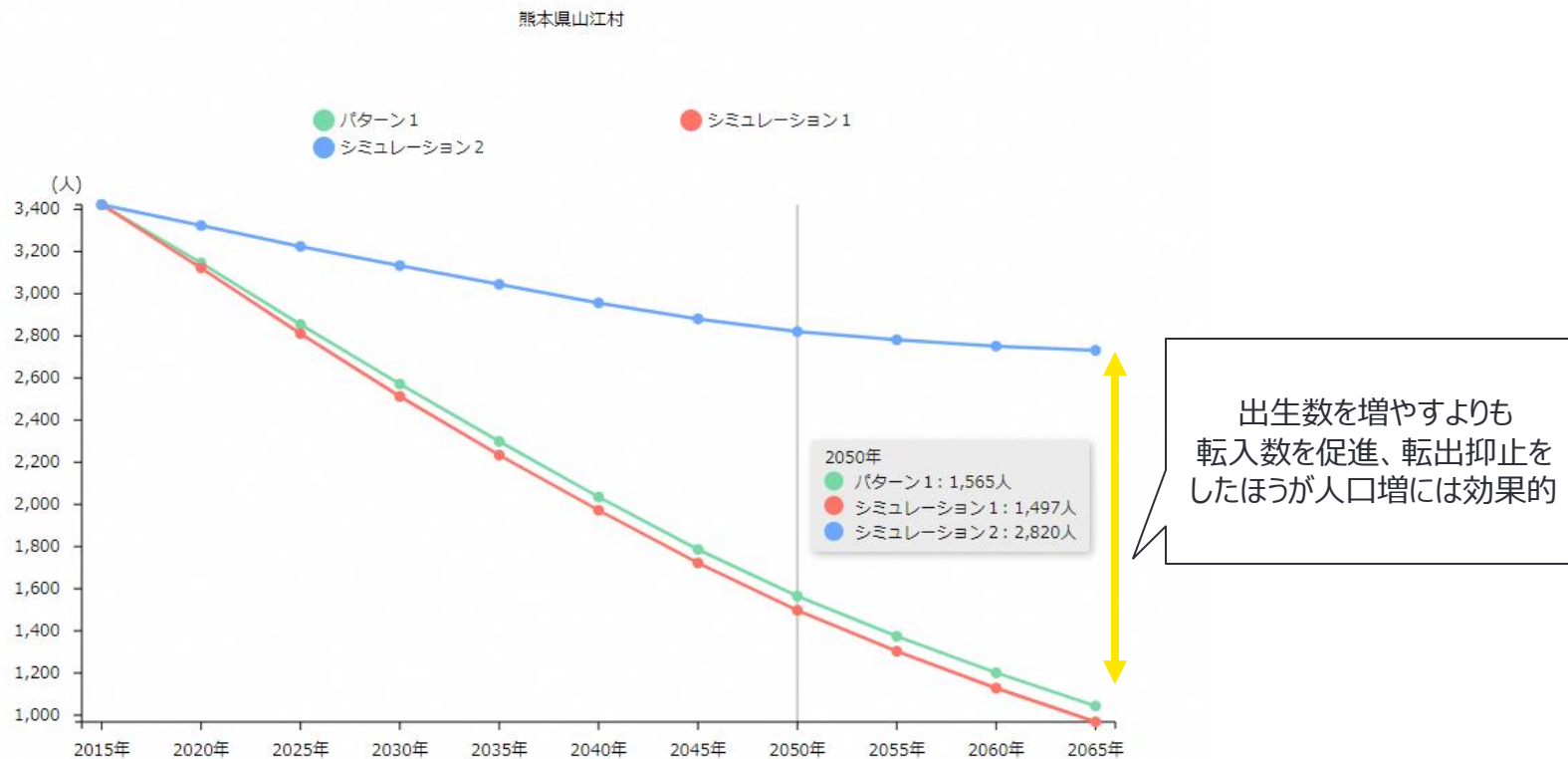
※当人口ビジョンの達成条件
(令和2年3月策定時)

- ① 人口流出が令和6年度までに縮小し、人口移動が均衡すること
- ② 2025年までに合計特殊出生率が2.13上昇すること
- ③ 更に2060年に2.34まで上昇すること

総人口の推計によると自然増に対する施策よりも社会増に対する施策の方が人口維持に向けてより効果のある施策となる可能性が高い。

総人口の推移

- ▶ 現状の合計特殊出生率が高いため、合計特殊出生率を修正したシミュレーション1と、維持したパターン1に大差は生じない。
- ▶ 人口移動がゼロとなる（＝社会減少がなくなる）シミュレーション2では比較的人口を維持できる推計となっている。



パターン1：全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計

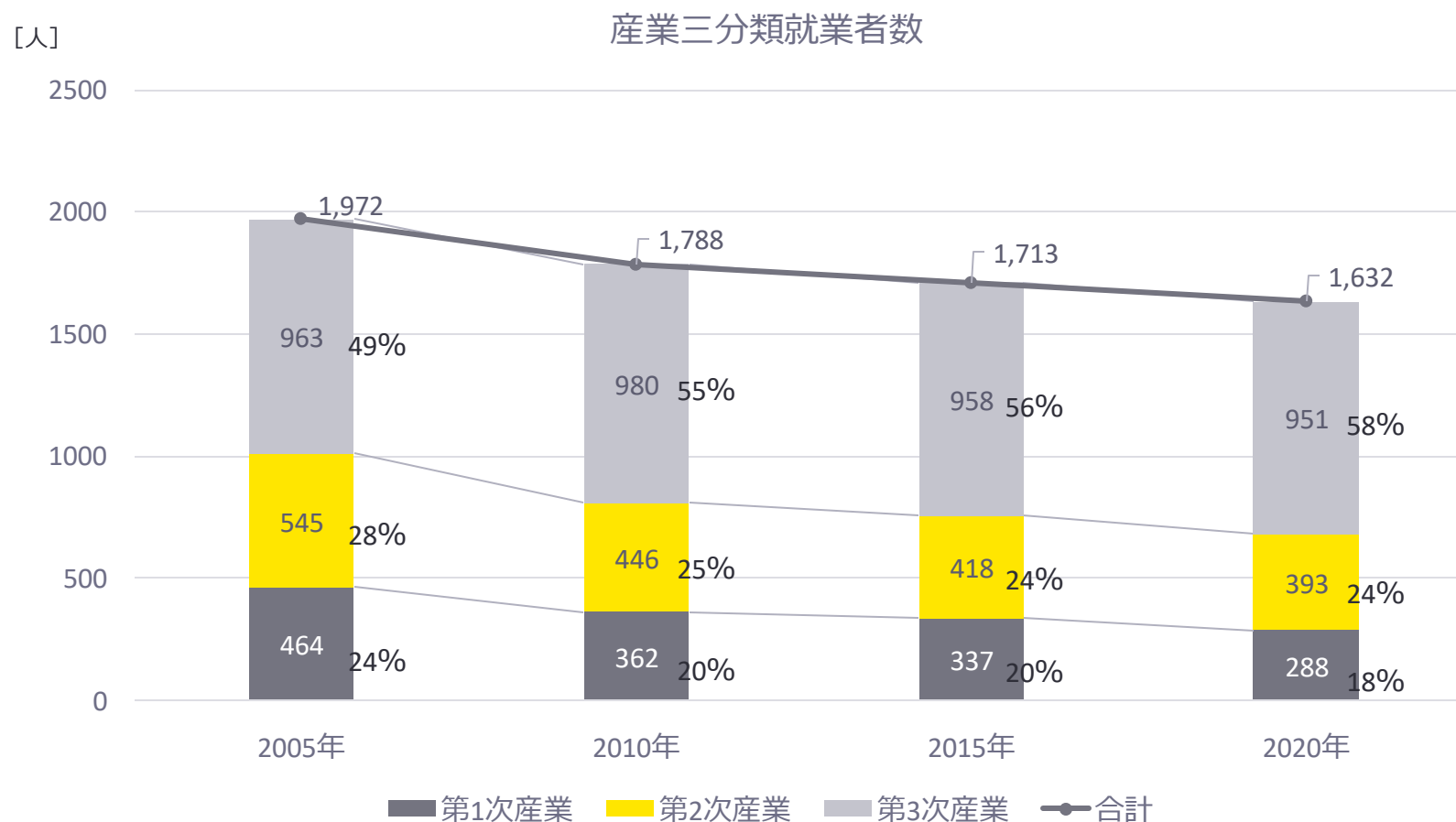
シミュレーション1：合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.1）まで上昇したとした場合

シミュレーション2：合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.1）まで上昇し、かつ人口移動がゼロとなった場合

総人口の減少に伴い、就業者数は減少傾向にある。特に、山江村の基幹産業である第1次産業の就業者数の減少は顕著であり、全就業者数に対する割合でも減少傾向である。

産業三分類就業者数の推移

- ▶ 総人口減少に伴い、就業者数は減少傾向にあり、特に2020年の第1次産業就業者数は2005年対比38%減少と三分類の中で顕著である。
- ▶ 就業者の割合では第3次→第2次→第1次の順であり、近年に近づくにつれてこの傾向は強くなってきている。



2. これまでの経過と背景

令和4年度に「山江村文化財(石蔵)活用基本計画」を策定し、文化財の視点から再建方針を取りまとめた。本計画に基づき、地域課題解決に向け、石蔵活用拠点整備事業に着手する。

背 景

- ・ 熊本県南部の人吉球磨地方は古来、良質な石材（間知石）の産地として知られており、石と石工に関する文化と歴史が存在する。
- ・ これらは山江村でも例外ではなく、村内には国登録有形文化財となっている石蔵（球磨地域農業協同組合第26号倉庫）をはじめ、指定文化財となった石屋根のほか、一字多くの石の道具もある。また、村内の大王谷、円蔵山には石切り場もあり、人吉駅機関庫や人吉城の石橋も山江村産の石と言われている。
- ・ 上記のような地理的特性がある中で、地域住民の方からかつて村内にあった石蔵4棟の寄贈を受け、文化と歴史を後世に残し伝えることが重要であるという考えのもと、令和3年7月から石蔵の保存・利活用の検討を始めた。

山江村の取り組み

- ・ 産業遺産、歴史遺産として価値のある里帰りした**石蔵**を令和の時代に新たな価値のあるものとして蘇らせるために、令和4年12月に「山江村文化財（石蔵）活用基本計画」を策定した。
- ・ 当該計画では、文化財の視点から「災害復興」「産業活性化」など、期待される機能と役割、再建の方針などを取りまとめた。
- ・ 本年度においては、石蔵を文化資産として継承するとともに、昨年度の計画に基づいた利活用の方向性（**村における象徴的な賑わいの場づくり**）に加え、**山江村の地域課題解決の実現**に向け、**地域資源を活用し、経済活性化や関係人口の創出など地域振興を図るための拠点整備**の方向性を取りまとめる。

これまでの検討状況

令和3年度
（教育委員会）

- ・ 石蔵活用に係る検討会（2回）開催

令和4年度
（教育委員会）

- ・ 文化財（石蔵）活用基本計画策定に係るワークショップ等（5回開催）

今年度（令和5年度）の検討状況

（企画調整課：石蔵活用拠点整備基本構想に着手）

- ・ 12月5日 第1回検討委員会
- ・ 1月24日 第2回検討委員会
- ・ 2月29日 第3回検討委員会
- ・ 3月19日 第4回検討委員会



山江村産の石材が使われている建造物及び関連の施設、場所

山江村内



球磨地域農業協同組合第26号倉庫



赤坂家石倉



高寺院石段



森下橋

山江村外



JR人吉駅機関庫



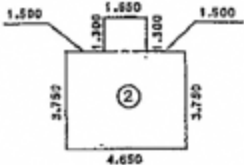
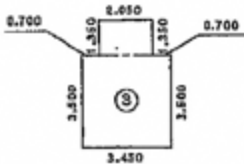
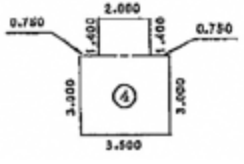
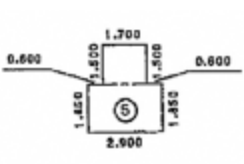
人吉城跡御館御門橋

令和4年度に「山江村文化財(石蔵)活用基本計画」を策定し、文化財の視点から再建方針を取りまとめた。本計画に基づき、地域課題解決に向け、石蔵活用拠点整備事業に着手する。

● 寄贈された石蔵の価値

かつて、山江村をはじめとする球磨地域には、米蔵として多くの石蔵が存在した。ところが農業の近代化とともに米蔵としての機能を失い、壊されたものも多くある。寄贈された4棟の石蔵には、産業遺産、歴史遺産としての価値があり、石蔵を再建する過程を通して、石工の技術が継承できるなどの文化的な価値もある。また、災害復興の拠点として、観光や産業振興の核として利用されることによって、山江村の活性化に寄与する。

寄贈された各石蔵の概要

	解体前の写真	平面図	求積表
一ノ蔵			$1.300 \times 1.650 = 2.145000$ $3.750 \times 4.650 = 17.437500$ 合計 19.582500 床面積 19.58㎡
二ノ蔵			$1.350 \times 2.050 = 2.767500$ $3.500 \times 3.450 = 12.075000$ 合計 14.842500 床面積 14.84㎡
参ノ蔵			$1.400 \times 2.000 = 2.800000$ $3.000 \times 3.500 = 10.500000$ 合計 13.300000 床面積 13.30㎡
四ノ蔵			$1.500 \times 1.700 = 2.550000$ $1.850 \times 2.900 = 5.365000$ 合計 7.915000 床面積 7.91㎡

石蔵の石材



解体の状況



解体後、保管状況（旧JAくり選果場内）

産業・歴史遺産である石蔵を村の新しい拠点の一つに位置付け、地域資源を活用しながら、地域課題の解決を目指す。

石蔵活用拠点 整備の目的

※石蔵はあくまで象徴、シンボリックな構築物・建築物や意匠材として活用を見込む

■ 魅力ある山江村の創造を目指した地域課題の解決（地域の価値向上）

① 地域資源を活用した産業活性化による地域社会が抱える課題の解決

- ✓ 山江村産業を“質”“量”の両面を強化することで、村内の付加価値額を向上させる。
- ✓ 村内に働く場所を創出することで負のスパイラル（人口流出 ⇄ 産業衰退）を抑制する。
- ✓ 同時に正のスパイラル（人口安定 ⇄ 産業成長）への転換を図る。

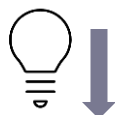
② 山江村産業活性化を起点とした“にぎわい”創出

- ✓ 第一次産業事業者や地域住民、観光客、山江村産業関連企業等が集積することでにぎわいを創出する。

山江村の現状（一例）



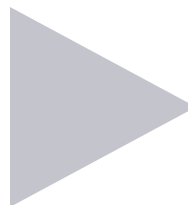
産業衰退



生活利便性低下



人口流出
担い手不足



山江村の目指す未来（一例）



経済活性化



生活利便性向上



人口安定
関係人口創出

文化財の活用 × 地域資源の活用

=

地域課題の解決 を目指す



人口安定

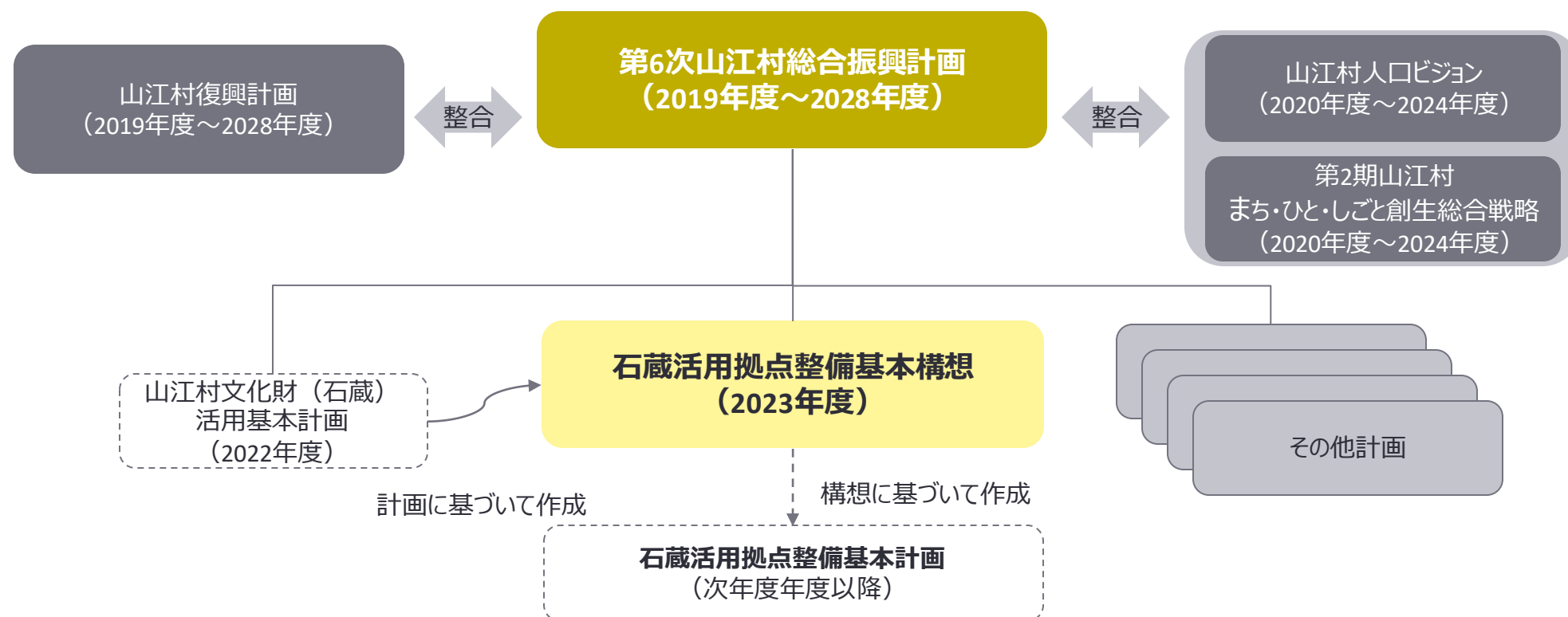


産業成長

本構想は山江村の総合的な行政運営の指針となる「第6次山江村総合振興計画」を上位計画とし、その他復興計画等を踏まえながら山江村の新たな振興の起爆剤としての構想を示す。

- 本構想は、令和4年12月に策定した山江村文化財（石蔵）活用基本計画に基づき、産業遺産、歴史遺産として価値のある寄贈された石蔵の再建・利活用に加え、本村の地域課題解決の実現に向け、災害復興とも関連した経済活性化や関係人口の創出など地域振興を図る拠点整備の方向性を取りまとめる。
- 構想策定にあたっては、村づくりを進めるうえで最も上位に位置づけられる「第6次山江村総合振興計画」のもと、「第2期山江村まち・ひと・しごと総合戦略」及び「山江村復興計画」とも整合性を図りながら、上位計画の目標を実現するための具体的な事業として石蔵活用拠点整備事業を位置づけ、策定を行う。

本基本構想の位置づけ



石蔵活用拠点整備事業は、主に第6次山江村総合振興計画の基本目標である「産業」と「教育・文化」に関するむらづくりの達成のための具体的な事業として位置づけられる。

● 第6次山江村総合振興計画

産業「人と資源を活かし、活力を生む」むらづくり		教育・文化「未来を拓き、輝く人材を育む」むらづくり	
主要施策	課題に対するチャレンジ	主要施策	課題に対するチャレンジ
農林水産業の振興	①担い手不足・高齢化の解消	学校教育の推進	①「生きる力」を育む教育の推進
	②農林産物の品質向上・生産向上		②郷土に愛着と誇りを持つ児童生徒の育成
	③特産品の安定供給、流通体制構築と販路の拡大、ブランド化		③国際化・情報化社会で活躍できる児童生徒の育成
	④地産地消及び地産外消に向けた取り組み	社会教育の推進	①社会教育環境の充実による村民の生きがい創出
	⑤森林整備の促進と森林の循環利用		②地域における、あらゆる分野の学びの機会の提供
商工業の振興	①商工業の担い手不足・高齢化の解消		③文化・芸術活動の振興
	②地場産業の育成・新たな産業の振興	社会体育の推進	①社会体育の推進による生涯スポーツの浸透
	③村内商店の活性化・新たな担い手の確保		②スポーツ環境の充実
	④企業誘致の推進・雇用の創出	歴史的文化遺産の保全と活用	①地域の文化遺産の保存・整備に向けた活動
観光・交流の振興	①観光交流づくりに向けた村内外での連携体制の構築		②文化財や村の歴史について村内外への周知・P R
	②自然・産業・景観・歴史・文化等で連携し住民が主体となった観光コンテンツの作成		③文化財を活用した魅力発信・活性化
	③観光交流プロモーションの推進		

石蔵活用拠点整備事業は、山江村復興計画に掲げる復興期に向けた仕組みの一つ「山幸海幸交流推進システム」の事業プロジェクトに位置づけられる。

● 山江村復興計画（令和2年7月豪雨災害）

基本理念

鎮山親水

（ちんさんしんすい）

自然との共生意識や畏敬の念を持ち、自然と親しむと同時に怖さを知り、自然との関わり方を見直す。人と自然の調和。

基本方針

（１）生活インフラ・住まいの再興

（２）道路・河川・農地・森林の強靱化

（３）より安全な暮らし・持続可能な山江村の次世代への継承

復旧・復興に向けた取組み

行政が主体となった取組み【復旧期】

- 道路・橋梁・河川・上下水道などの災害復旧
- 村営住宅の復旧
- 農地・農業用施設の復旧
- 営農、事業の再開・継続に向けた支援
- 被災者への生活支援 など 13項目

住民参加による取組み【復興期】

山江の森維持管理システム

山江の森・水管理推進プロジェクト

森林や水辺の整備に取組み、自然に親しむ環境づくりに取組みます

山江の森・水管理推進プロジェクト

公有林や放置林などを森林環境教育の場として活用し、子どもの頃から山の楽しさを知り、山を守る人材の育成に取り組めます

災害時緊急避難システム

いざという時のプロジェクト

避難所や緊急避難場所を整備し、一人ひとりの防災意識の向上を図り、災害時も安心安全に避難できる環境づくりに取り組めます

災害にあわない家づくりプロジェクト

災害が起こりやすい場所でも家や避難所など建て方や暮らし方を工夫し、災害に備えた住環境づくりに取り組めます

山幸海幸交流推進システム

村内の上下流交流プロジェクト

村の豊かな資源を活用し、村内における「人」や「物」の流れをつくり、地域振興に取り組めます

海幸・山幸交流プロジェクト

流域における「人」や「物」の交流を通じて、産業振興や関係人口の創出などに取り組めます

山を活かす村

イエを活かす村

江を活かす村

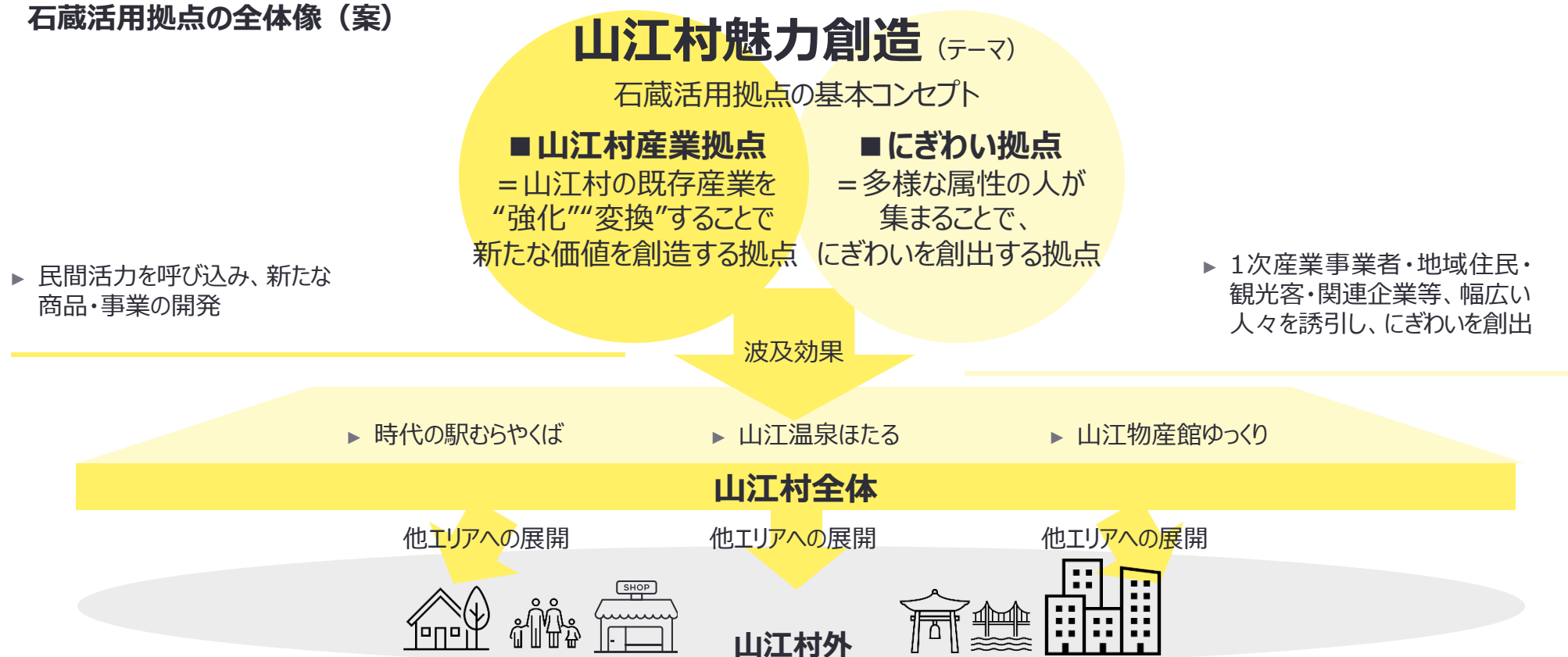
『未来へ みんなでつなぐ 自己治癒力の高い むらづくり』

3. 石蔵活用拠点整備の基本方針

新たな価値創造を行い“質”と“量”を強化する「山江村産業の拠点」と地域の住民と域外の人 が集まる「にぎわい拠点」の両輪で運用していく。

- 石蔵活用拠点は、地域が抱える課題を解決することで、山江村の魅力向上を図る。
- 山江村の既存産業を“強化”“変換”することによって、新たな価値が創造されていく「山江村産業」の拠点に加え、住民や観光客をはじめとする多様な属性の人が集まることで賑わいを創出する「にぎわい」拠点として整備していく。
- これらの2つの拠点を石蔵活用拠点として形成し、相互に価値を高め合いながら魅力ある山江村を創造するとともに、波及効果によって山江村外への展開へと繋げていき、持続的に発展する豊かな地域（むらづくり）を実現する。

石蔵活用拠点の全体像（案）



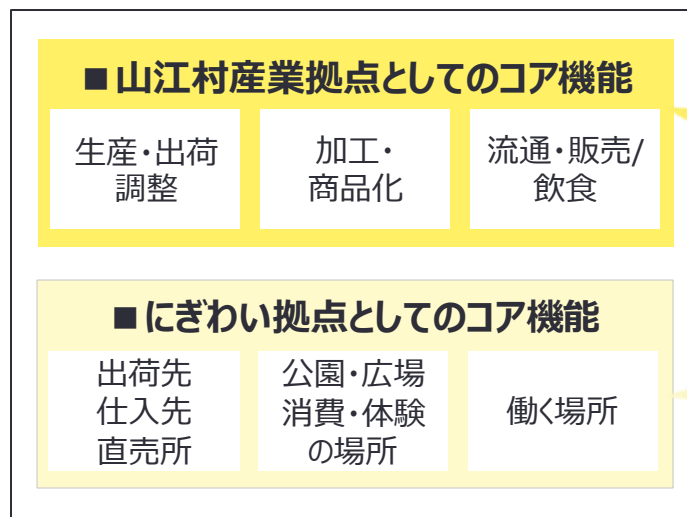
石蔵活用拠点では多様なプレイヤーを呼び込み、コラボレーションを促進することで、新たな価値創造による産業・産地振興とにぎわい創出を図る拠点として整備を検討していく。

- 石蔵活用拠点は、多様なプレイヤー・情報がコラボレーションする山江村産業の拠点を方針とし、新たな価値創造と山江村の賑わいを創出する拠点を目指します。1次産業事業者・地域住民・観光客・栗関連企業等、幅広い人々を誘引するため、民間活力を活かし、創意工夫のなされた官民連携での拠点整備を目指す。

石蔵活用拠点整備の方針（案）

多様なプレイヤー・情報がコラボレーションし、 新たな価値や賑わいを生み出す拠点

多様な属性の人が、**山江村産物（特にやまえ栗）**を起点として各々の目的で誘引される



新たな価値を創造し、山江村の
“産業・産地振興”を図る



多様な人が集まることで
村に“にぎわい創出”する



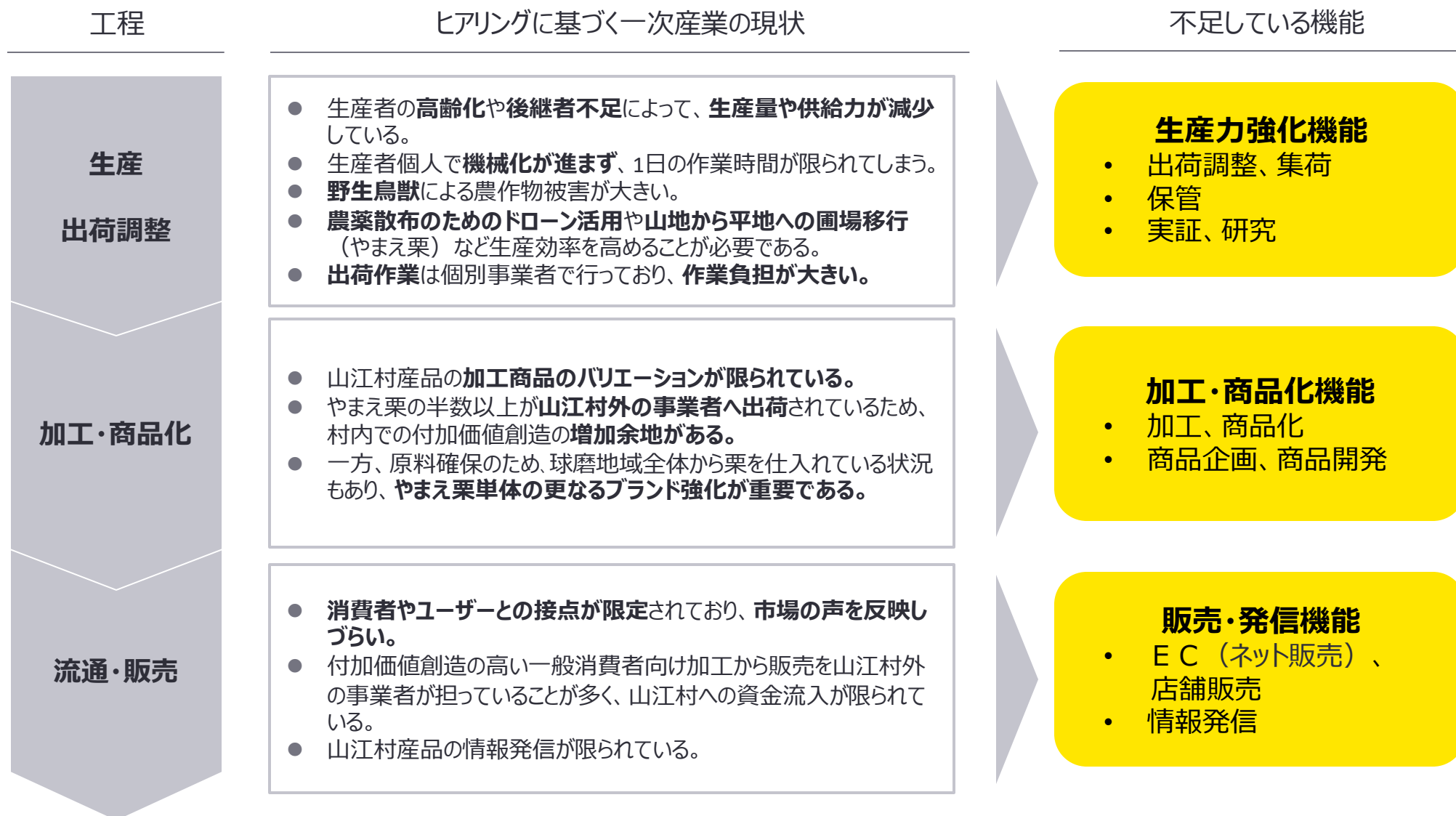
にぎわい創出



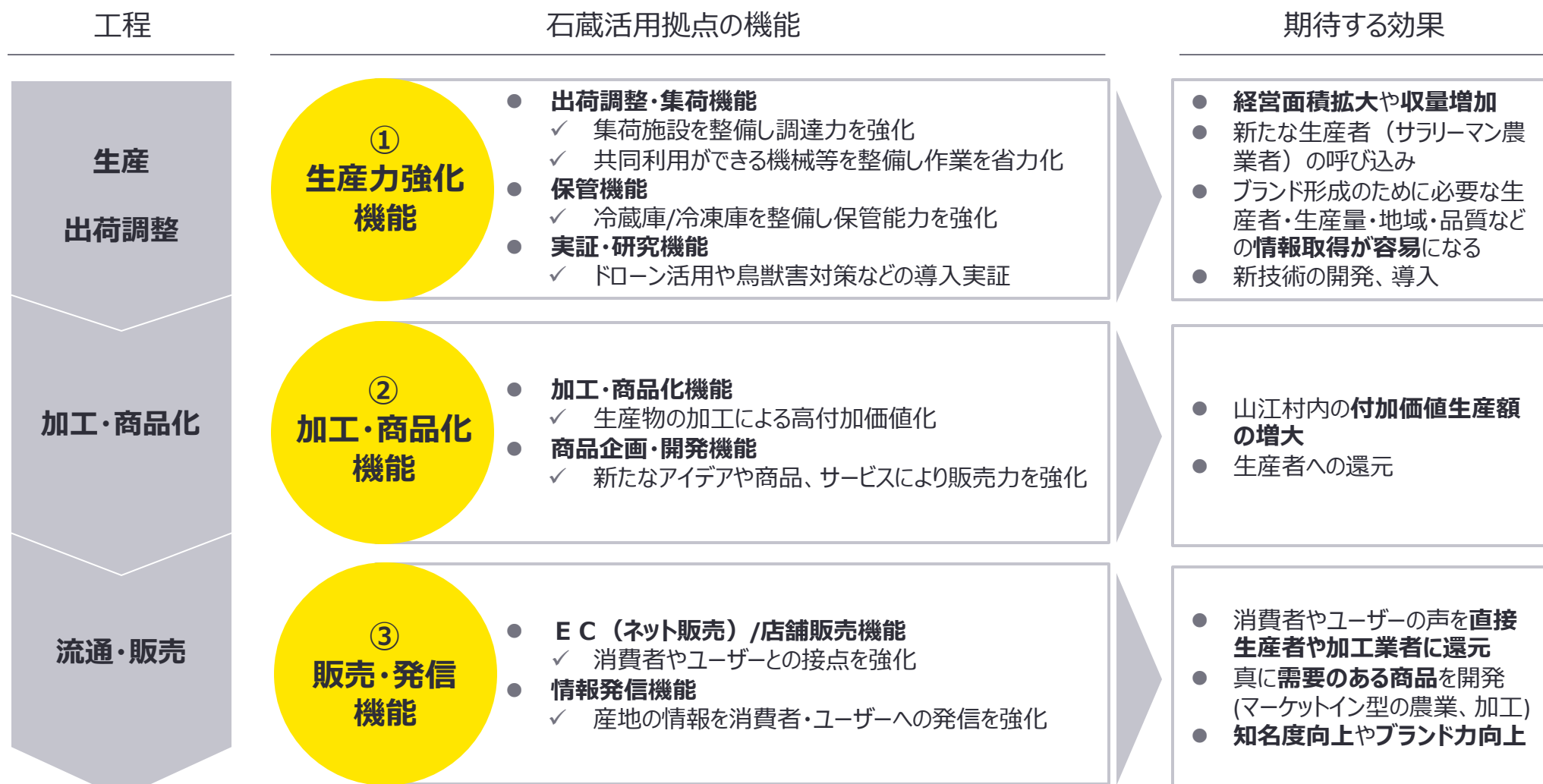
※石蔵はあくまで象徴、シンボリックな構築物・建築物や意匠材として活用を見込む

4. 石蔵活用拠点の機能

一次産業・産地振興のためには、事業者のヒアリング（聞き取り調査）によって顕在化された不足している機能の強化、導入が必要となっている。



山江村産物の各工程上で不足している機能を拠点にて、強化、整備することで、生産量や付加価値生産額の増加及び知名度、ブランド力向上を目指していく。

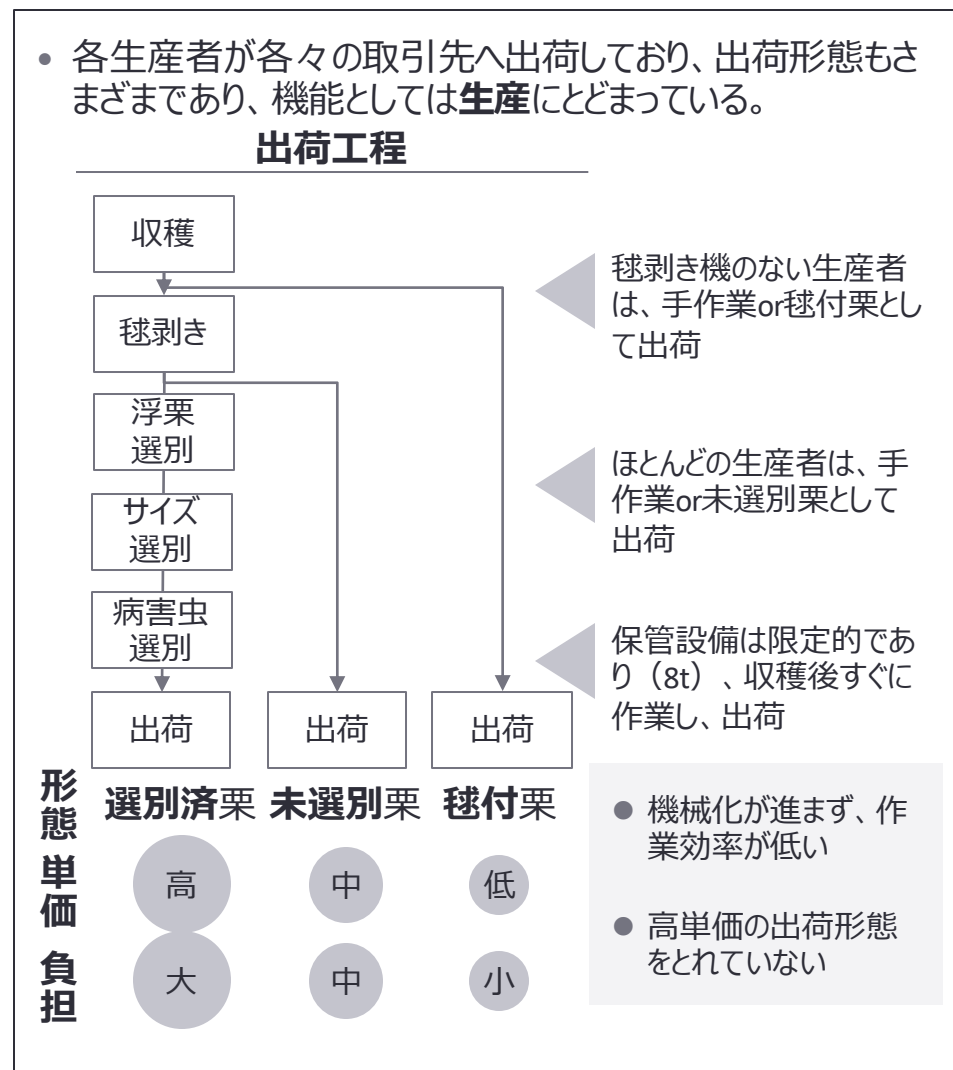


※石蔵活用拠点を起点とした産業活性化と並行して、一気通貫したブランド形成も検討していく

生産者強化の機能として、共同利用の機械や冷蔵・冷凍庫等を導入し、生産者(専業農家・兼業/副業農家)の省力化及び生産基盤の強化が可能な場の整備を検討していく。

①生産力強化機能（例：やまえ栗）

山江村における現機能



石蔵活用拠点で整備する機能



山江村産品の加工・商品化及び販売・発信の拠点として、山江村産品を使用した製品・商品を製造する事業者や小売り事業者が参画するための施設の整備を検討していく。

②加工・商品化機能

山江村における現機能

有限会社やまえ堂（加工業者）

- ✓ 一般消費者向け及び業務用のくり加工品を製造販売
- ✓ 小規模な直営店舗あり



栗きんとん



栗んとう

株式会社やまえ（加工業者）

- ✓ 一般消費者向け及び業務用のくり加工品を製造販売
- ✓ 運営中の物産館にて自社商品を販売



びつ栗だんご



栗まんじゅう

山江村農林産物振興協議会

- ✓ 山江村産品を使用した商品開発



精製オイル



ゆず胡椒

ふるさと納税

- ✓ ふるさと納税サイト運営
- ✓ やまえ栗を使用した返礼品の開発



やまえ栗バウムクーヘン

③販売・発信機能

石蔵活用拠点で整備する機能

- 既存機能の強化に加え、ユーザー・消費者との接点を作る

■ 既存機能の強化

・加工場

- ✓ 既存施設に加え、付加価値の高い消費者向け商品製造能力を強化する



・ネット販売・ふるさと納税

- ✓ 消費者のデータ取得・分析が可能
- ✓ 遠方在住の消費者ともつながることが可能



■ 新たな機能の整備

・直売所、直営ショップ、カフェ、飲食店

- ✓ 来訪者や住民が山江村産品を実際に感じる（食べる）ことができる施設



・マーケティング・商品開発

- ✓ ユーザー、消費者ニーズを汲み取り現場へ反映させる



村政へ住民の意見を反映させるため、住民の考える山江村の課題に関するアンケートを実施し、「働く場」や「飲食店・商店」に関する課題感を把握した。

住民アンケートの概要

目的：村政へ住民の意見を反映させるため、住民が山江村の課題として感じることを把握する。

期間：令和5年8月25日（金）発送 ～9月15日（金） 〆切

対象者：600世帯（無作為抽出）

回答数（回収率）：242（40%）

構成：

カテゴリ	問題数	内容
回答者属性	4問	回答者の属性を特定する
再生可能エネルギーに関する項目	9問	再生可能エネルギーに関する理解度を図る
脱炭素に関する項目	11問	脱炭素に関する理解度を図る
山江村に関する項目	7問	山江村の魅力や課題、取り組みへの認知を図る

備考：今年度策定中の再生可能エネルギー導入計画に関する調査とあわせて実施

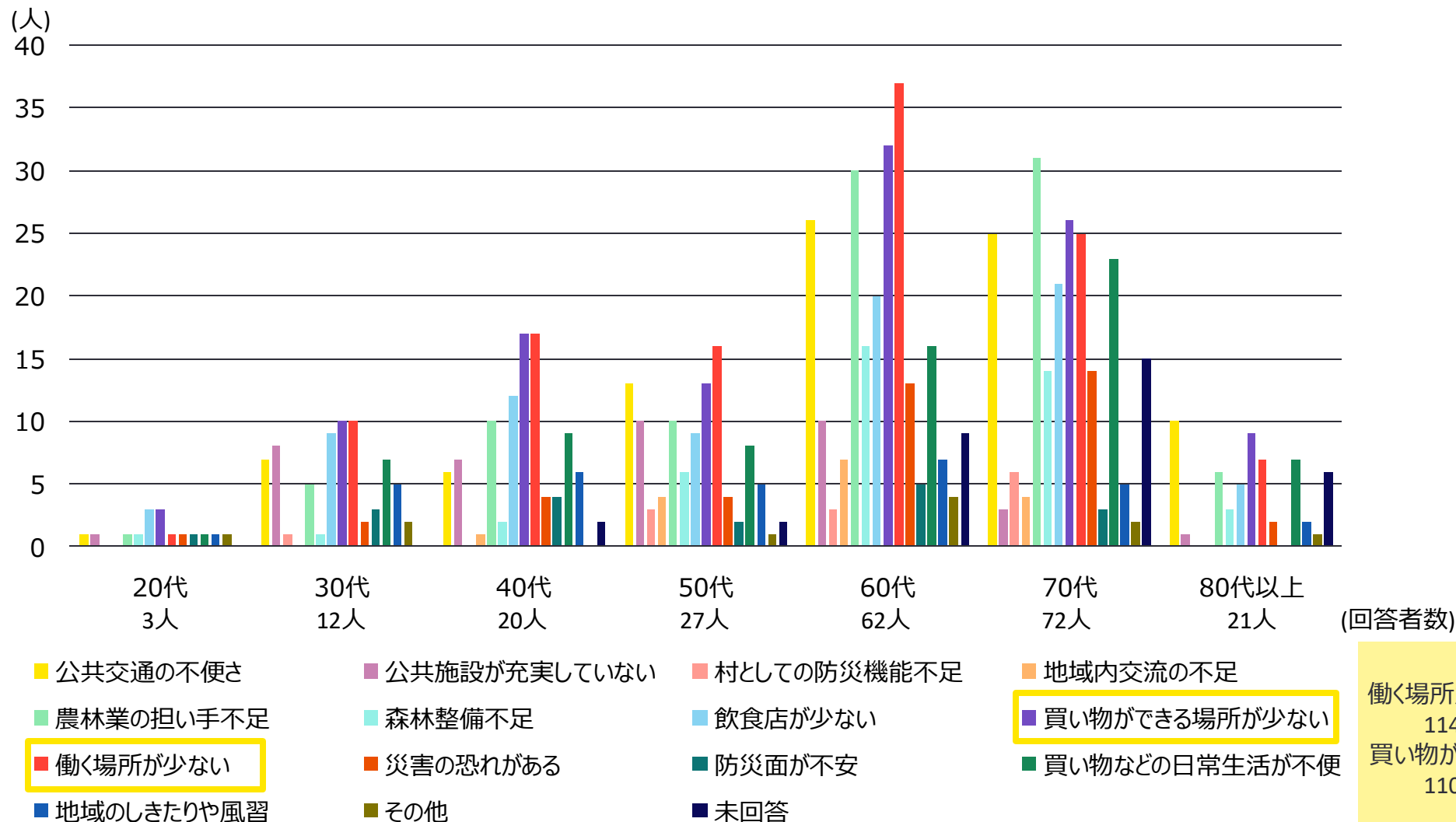
結果（まとめ）：以下の意見が顕著にみられた

- ・ 条件面で満足して働ける職場・仕事がない（少ない）
- ・ 住民が買い物できる場所が少ない
- ・ 住民が利用しやすい飲食店や商店が少ない
- ・ （子供だけで）遊ぶ場所が少ない

住民の住みやすさ向上のためには、「働く場」と「買い物、飲食ができる場所」が必要

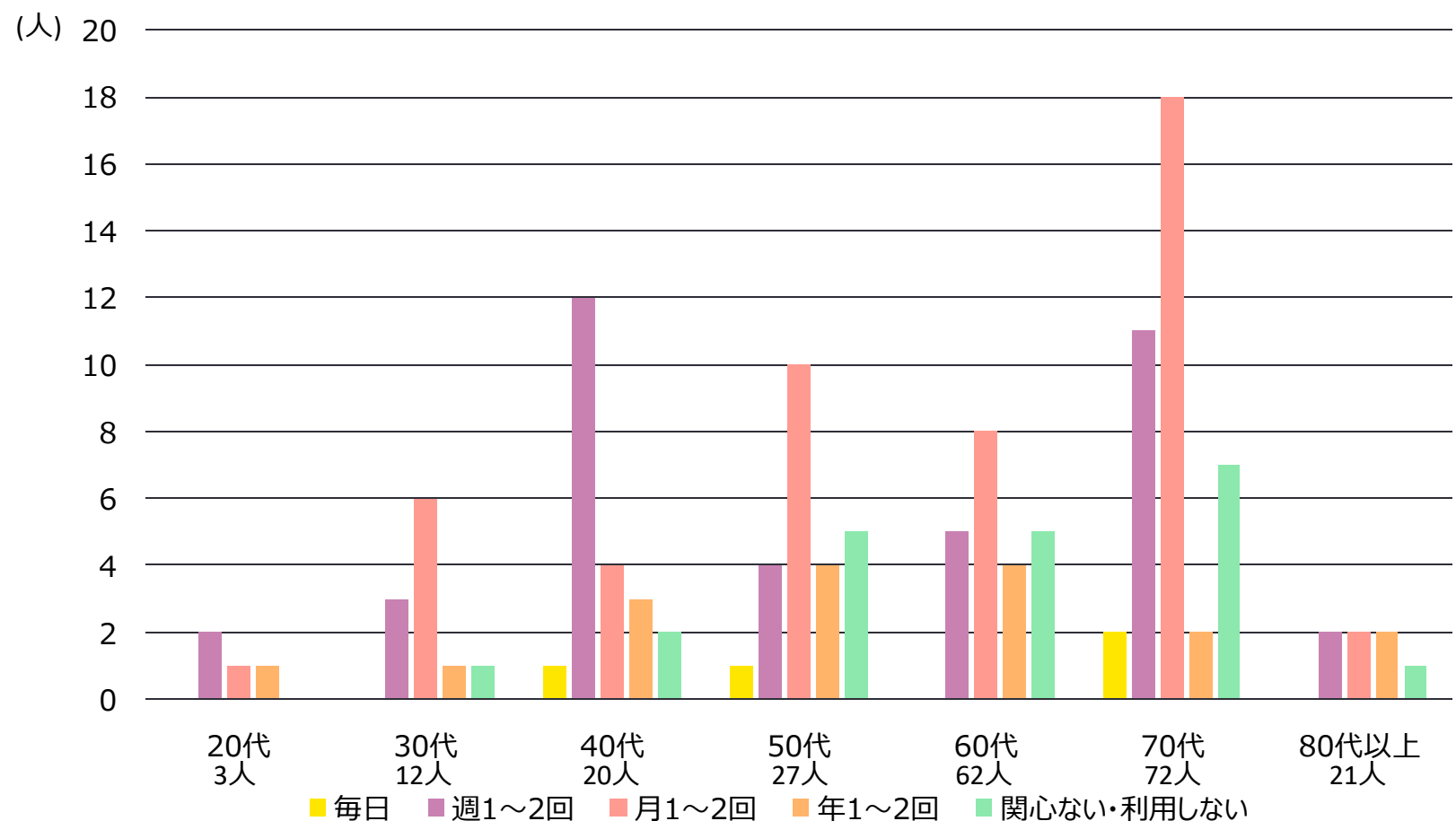
山江村の課題として若年層から中年層にかけては働く場所の少なさを、高齢層では買い物ができる場所の少なさを課題と感じる人が多い。

- 山江村の課題として感じるものは何ですか？ 当てはまる番号を選び○で囲んで下さい（複数回答可）。



40～60代の中年層において、農産物・特産物販売所のニーズが高い。

- 山江村にあったらいいと思う施設・機能は何ですか？また各施設・機能があった場合どのくらいの頻度で利用しますか？
 - 農産物・特産物販売所(「その他」を除く)



【現状】

- 直売所は「物産館 ゆっくり」及び「時代の 駅むらやくば」に設置
- 栗は収穫時期のみ週に1度、直売を実施

【結果】

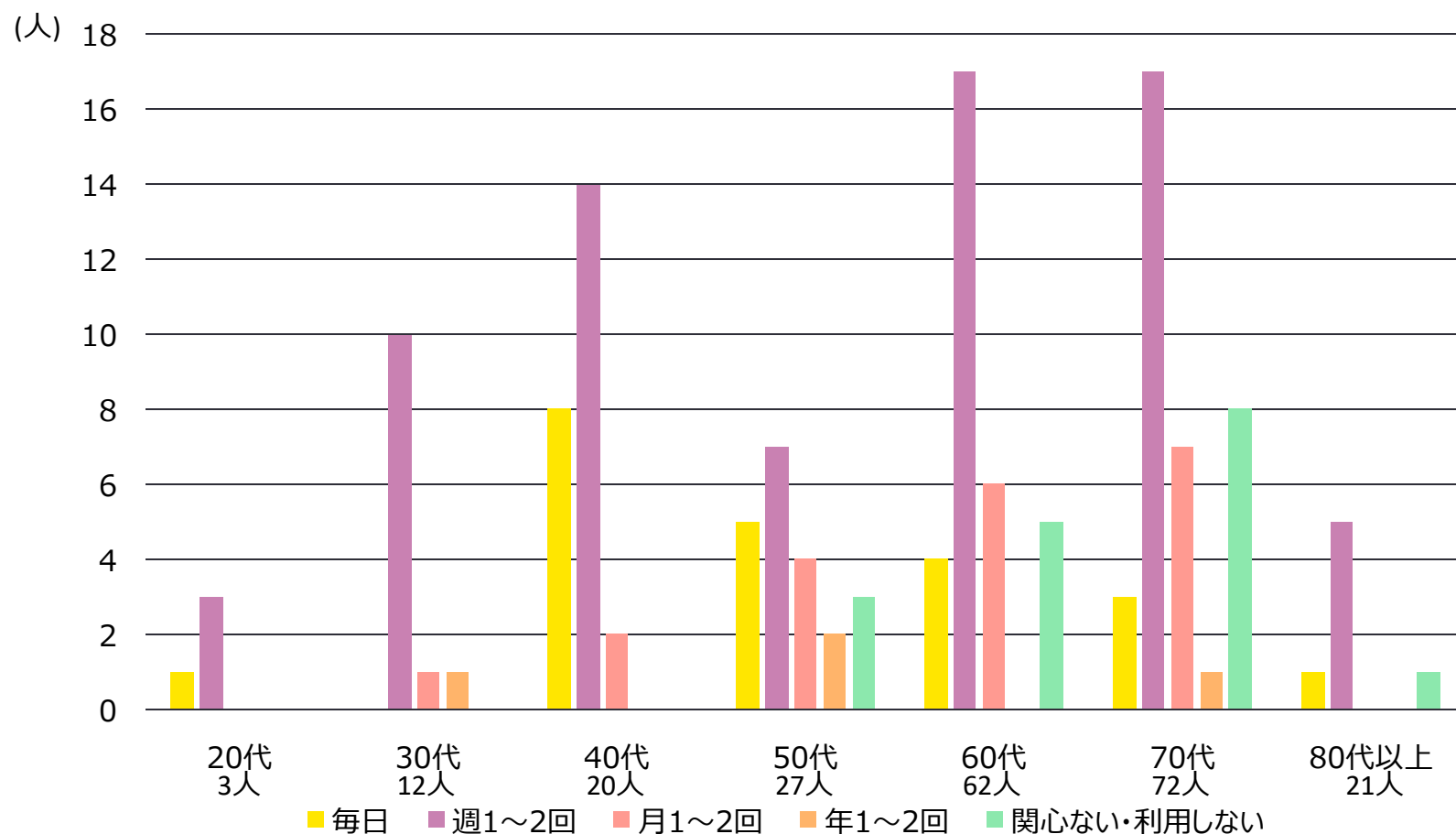
毎日：4名
 週1～2回：39名
 月1～2回：49名
 年1～2回：17名
 関心なし：21名
 その他：112名

(回答者数)

商業施設は若年層から中年層にかけて特にニーズが高い傾向にある。

- 山江村にあったらいいと思う施設・機能は何ですか？また各施設・機能があった場合どのくらいの頻度で利用しますか？当てはまる欄に○をつけて下さい。

商業施設(スーパー等)



【現状】

- 商店が山田地区に2店舗

【結果】

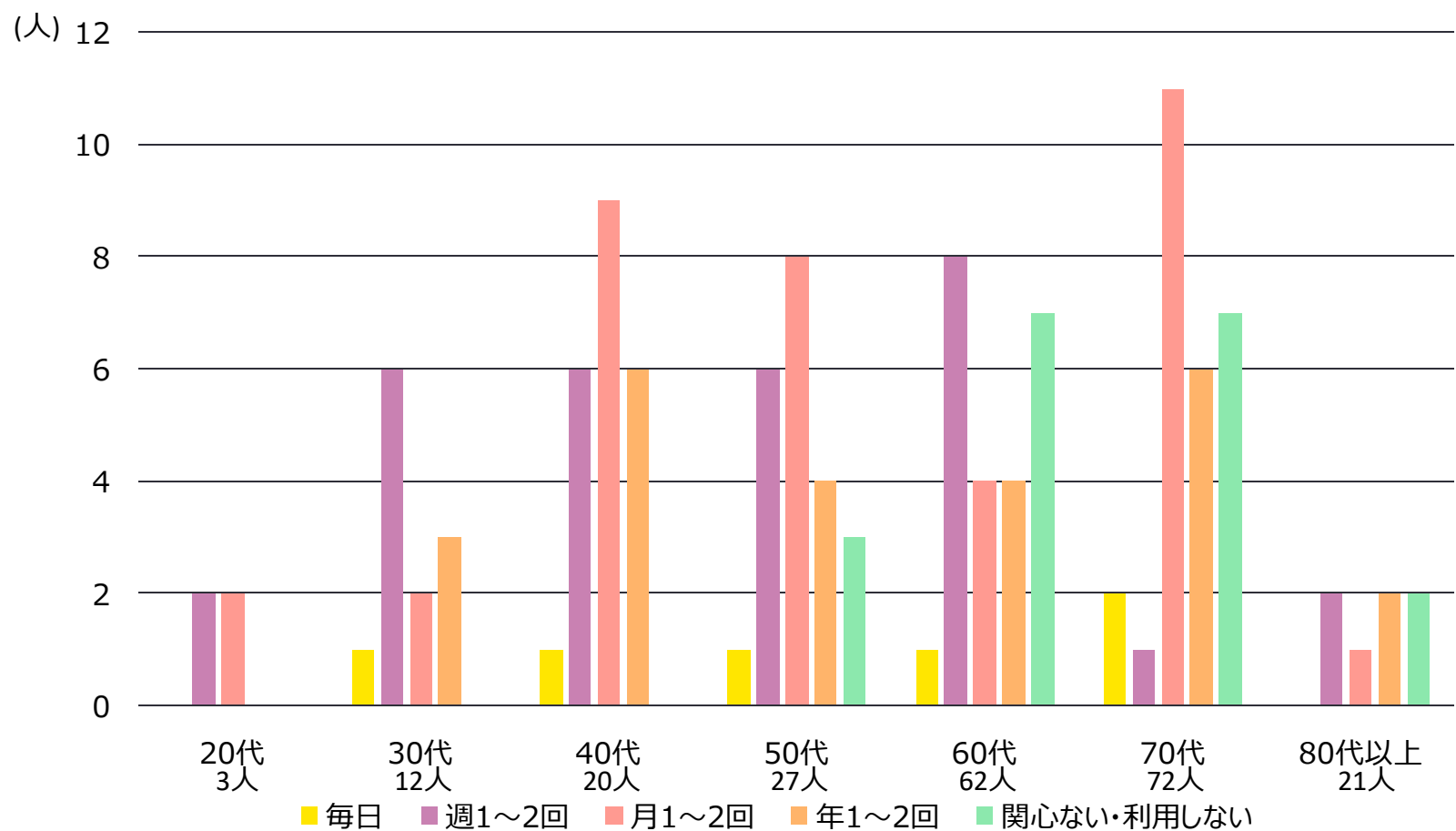
毎日：22名
週1～2回：73名
月1～2回：20名
年1～2回：4名
関心なし：17名
その他：106名

(回答者数)

公園は全年代にニーズがある。

- 山江村にあったらいいと思う施設・機能は何ですか？また各施設・機能があった場合どのくらいの頻度で利用しますか？当てはまる欄に○をつけて下さい。

公園



【現状】

- 丸岡公園があるが、児童だけでは行きづらい

【結果】

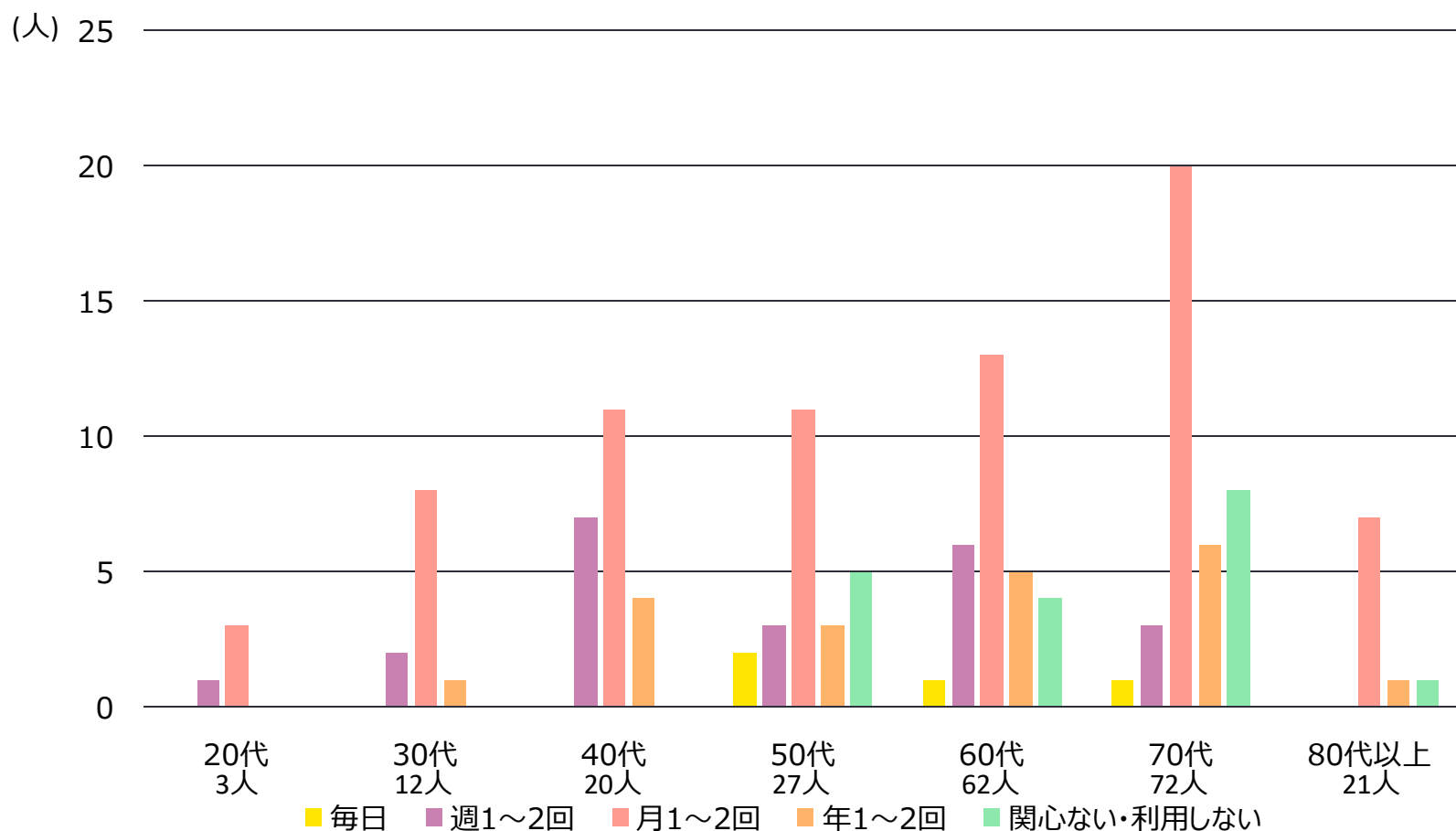
毎日：6名
週1~2回：31名
月1~2回：37名
年1~2回：25名
関心なし：19名
その他：124名

(回答者数)

飲食店・食事処は公園と同様に全年代にニーズがある。

- 山江村にあったらいいと思う施設・機能は何ですか？また各施設・機能があった場合どのくらいの頻度で利用しますか？当てはまる欄に○をつけて下さい。

- 飲食店・食事処



【現状】
食事処は
「時代の駅むらやくば」
「山江温泉ほたる」
「地鶏ファーム」
の3軒

【結果】
毎日：4名
週1~2回：22名
月1~2回：73名
年1~2回：20名
関心なし：18名
その他：105名

(回答者数)

石蔵活用拠点は「にぎわい拠点」として、山江村民にとっても身近な課題解決となる機能の整備・提供を目指し、生活の質を高める検討をしていく。

住民向けの機能

山江村における現機能（※アンケート調査の結果より）

- 若年層から中年層にかけては働く場所の少なさを課題と感じている人が多い。

● 山江村住民の勤務先

勤務先	人数
自宅	300人
村内	365人
村外就業者	990人
合計	1,655人

（※15歳未満を中学生以下、15～19歳を高校生と仮定し算出）

- 高齢層では買い物ができる場所の少なさを課題と感じる人が多い。

● 山江村の小売り・直売店舗

名称	形態	生鮮食品の販売
藤田商店	小売り	取り扱い無し
稲留商店	小売り	取り扱い無し
物産館ゆっくり	直売所	狭小スペースで販売
時代の駅むらやくば	直売所	狭小スペースで販売

- 自然は豊かだが、安全に自由に遊べる場所が少ない。

石蔵活用拠点で整備する機能

- 魅力ある働く場所としての機能を提供（雇用創出）

選果・集荷場/加工場

- ✓ 職場としての体制づくり
- ✓ 村の仕事で生きがいをつくる



飲食店・カフェ

- ✓ 職場としての体制づくり（特に若者やパートタイマー）



- 村民も日常的に使える施設を提供

直売所

- ✓ 買い物支援として、生鮮品を村内で購入することができる



公園・広場

- ✓ 子供から大人まで利用できる



5. 事業の進め方

整備する機能を踏まえ、4つの石蔵のうち1つを工作物もしくは建築物として再建し、その他の石材は意匠材などに活用することを念頭に検討していく。

● 石材活用方法

	①工作物として利活用	②工作物×多目的利活用	③建築物として利活用	④建築物×多目的利活用
	4つの石蔵を再建し復元 - 石蔵を建築物ではなく、工作物として活用する	4つの石蔵のうち1つを再建し復元 1つの石蔵は工作物として扱い、他の3つの石蔵の石材は別の用途として意匠設計等に活用する	4つの石蔵を再建し、復元 - 各石蔵を建築物として取り扱い、なにかしらの施設機能を具備させる	4つの石蔵の石材を集積させ、1つの石蔵を建設。建築物として再建造する 1つの石蔵を拠点機能のシンボリックな建築物として位置づける（ミュージアム利用など）
技術	- 建築基準法に適合して建造 - 居室利用ではなくモニュメントとして位置付けるため構造耐用基準を充足させる必要あり	①と同様。石材加工やデザイン面での技術的工夫が必要	- 建築基準法に適合して建造 - 建築確認申請、完了検査申請が必要 - 防火、衛生規定と、柱や梁などの仕様規定などの現行規定に沿った形での建設が必要	- 建築基準法に適合して建造 - 建築確認申請、完了検査申請が必要 - 防火、衛生規定と、柱や梁などの仕様規定などの現行規定に沿った形での建設が必要
費用	各種仕様規定を満たすための建設費用が発生する ※詳細は設計時に要検証	- 構造耐力規定を満たすための建設費用が発生。①よりは低減される可能性あり - 意匠設計に係る設計デザイン・加工費用が追加的に発生 ※詳細は設計時に要検証	各種仕様規定を満たすための追加建設費用が発生する ※詳細は設計時に要検証	- 各種仕様規定を満たすための追加建設費用が発生。③よりは低減される可能性あり - 意匠設計に係る設計デザイン・加工費用が追加的に発生 ※詳細は設計時に要検証
集客	集客力等の効力は限定的	デザイン設計力次第で訴求力を持つ	機能・アイデア次第で訴求力を持つ	デザイン設計力次第で訴求力を持つ

限られた予算を有効活用するために、費用対効果もふまえ石材の活用方法を検討していくことが重要

千葉県富津市にある鋸山では鋸山の石が使われた鋸山美術館及び資料館がシンボリックな建物として位置付けられている。

鋸山美術館

- 鋸山美術館は2010年3月に金谷美術館（2020年に鋸山美術館に改名）としてオープン。
- 「石と芸術」をテーマに町おこしに取り組む千葉県富津市金谷の「芸術」のシンボルとなっている。

意匠として石材を活用



鋸山資料館

- 鋸山資料館は鋸山美術館裏にある別館の石蔵。
- 石蔵は鋸山の石が使われた建物で、国登録有形文化財であり、鋸山の歴史を学ぶことができる。

建築物として活用



人吉から車で約5分かつ、役場をはじめとする施設が集積している山江村の中心部に石蔵活用拠点を整備することで、地域内/外の双方にとって利便性の高い拠点をを目指す。

山田大王神社

- 国重要文化財に指定されており、本殿は南九州地方でも中世に遡る数少ない建築で、保存状態も良く、貴重な存在である。



高寺院

- 木造毘沙門天立像の2体が国重要文化財に指定されており、人吉球磨で一番古い寺院と言われている。



歴史民俗資料館

- 年間を通して山江をはじめとする、人吉球磨地域を中心とした企画展示を開催している。



【候補地周辺の特性】

交通の利便性が良く、周辺に文化財施設などが点在し、立地条件も良いことから、地域一帯が連携することで新たな魅力を創出できる可能性を有する地域である。



球磨地域協同組合第26号倉庫

- 国登録有形文化財。現在、保冷库として活用されている。



時代の駅むらやくば（レストラン）

- 旧役場を改築したもので、1階は自然豊かな農山村の恵みを提供するレストラン施設となっている。



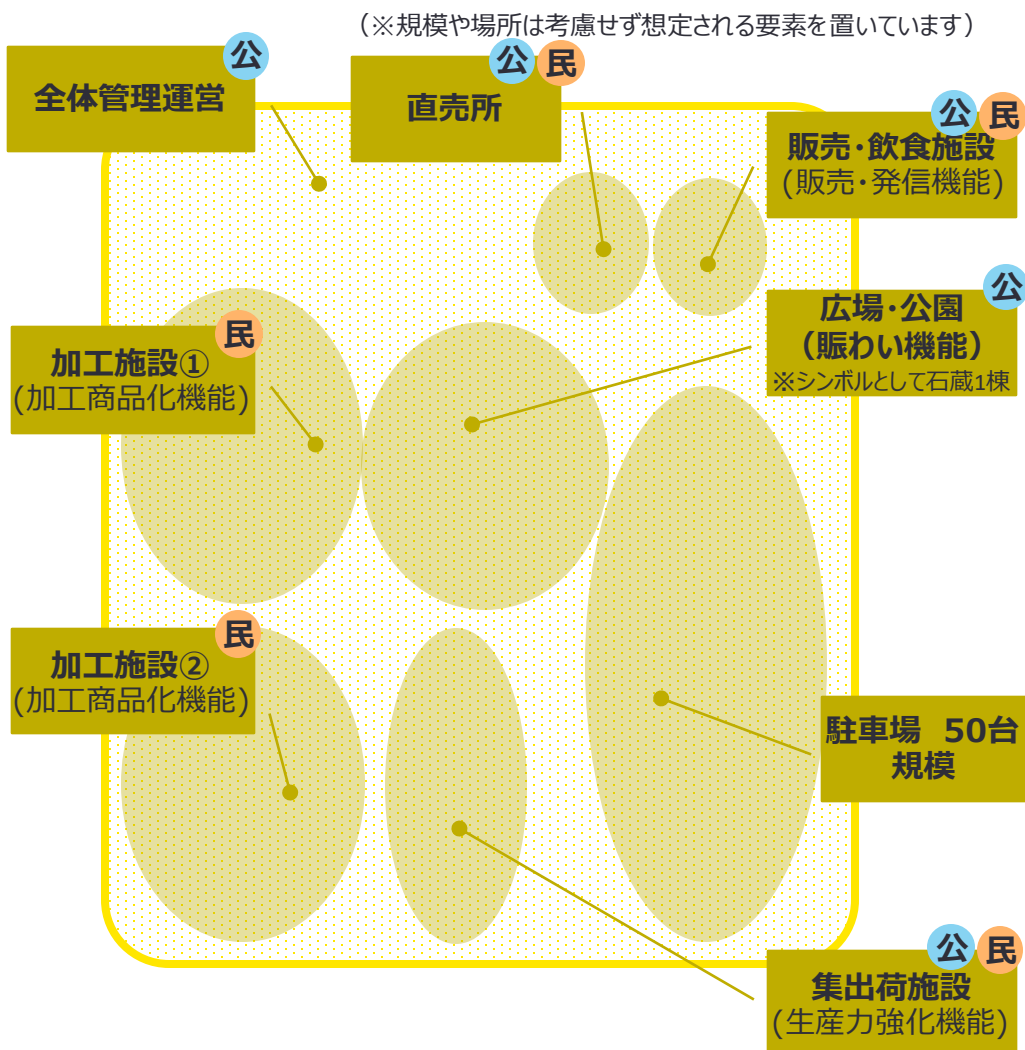
旧JAくり選果場

- 候補地の傍で、拠点整備と一体的な土地の有効活用が見込める。
- 建物も老朽化し、景観を損ねているため、取壊しを含めた検討を行う。



山江村産業拠点及びにぎわい拠点の着実な実現のために、石蔵活用拠点の特性も踏まえながら、民間活力の積極的活用等の観点から最適な手法を検討していく。

整備する機能・施設のイメージ



枠組み検討の観点

公共/民間の複数の主体による施設整備を予定している本拠点において、拠点の効率的・効果的な整備・運営のために、以下の観点から、最適な手法を検討していく。

① 民間活力の積極的活用

機能整備や拠点への誘客等、市場での競争優位性を高めるため、民間企業の持つノウハウ・ネットワークを最大限活用していく。

② 拠点全体のマネジメント

山江村産業拠点及びにぎわい拠点の着実な実現のため、拠点全体の運営管理・企画、ソフト事業との連携等を行うことのできる体制を設計する。

③ 村の財政的負担の軽減

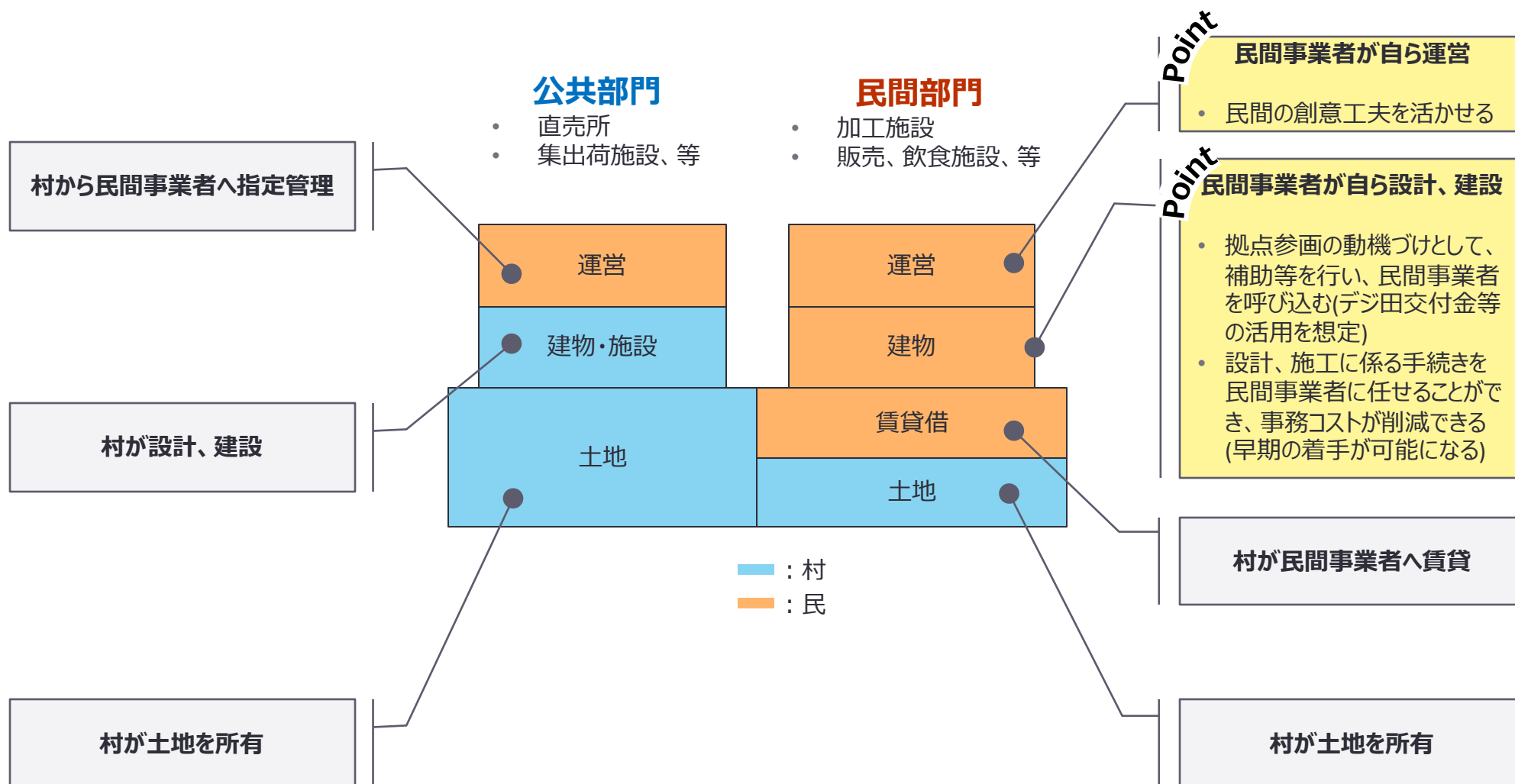
土地・建物の所有・整備・管理・運営主体において幅広い手法を検討し、官民連携で担っていくことの全体最適化、経済的合理化を図る。

④ 将来的な地域運営組織/地域づくり組織への発展性

住民が中心となって地域課題の解決に向けた取組を行うための旗振り役となる組織へ発展できる素地を作っていく。

公共部門は村が建物・施設を建設し、運営を民間事業者へ指定管理等する想定。
民間部門は村が土地を民間事業者へ貸出、民間事業者自ら施設を建設、運営する想定。

枠組み想定イメージ



拠点運営者の想定される役割及び将来的な地域運営組織/地域づくり組織への発展性も踏まえ、事業スキームと並行して拠点運営者の選定を行っていく。

● 拠点運営者の想定される役割

大項目	中項目	具体例	選定の視点
運営・管理	総括業務	収支管理、従業員管理、報告書の作成、補助金申請、消耗品等の補給、等	基本的な業務であり、運営者によって大きな差がでることは少ない。
	運営業務	利用料金の徴収、等	
	維持管理業務	保守点検・修繕、清掃、警備、等	
コーディネート	地域内交流	地域のニーズの拾い上げ、住民に対する拠点の運営状況の周知・広報、周辺施設との連携、等	地域住民向けの施設でもあるため、山江村に根差した組織もしくは、山江村に関わりのある組織が理想である。
	拠点参画者との調整	地域内や役場の方針等のフィードバックや拠点全体企画時の連携、等	
	役場との調整	運営の状況、企画の検討状況の連携、等	
	地域外交流	村内や拠点の情報発信、問い合わせや視察への対応、等	拠点への来訪者呼び込みのために情報発信能力は重要である。
全体企画	拠点全体での企画	拠点全体で行う活動内容の企画・検討・実施	- 拠点の成功に大きな影響を与えるため、重視 - 外部専門家が参画することで、一定程度補うことも可能であるが、管理運営者＝全体企画が理想である。

上記及び将来的な地域運営組織/地域づくり組織への発展性を踏まえ、農村RMO（次年度以降設立）を念頭に置き、拠点運営者を選定していく

2024年度：設計、2025年度：着工、2026年度に開業を目指す。

	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)
マイルストーン	基本構想策定	パートナー選定 拠点整備計画案	施工期間	開業
計 画		事業計画 施設計画案 とり まとめ 調整		
設計・施工		設 計 用地取得	新築工事	供用開始
運 営		パートナー 選定 計画策定支援 設計支援 契約条件確定	地域・行政との連携体制の構築	運営準備 運営開始
農村RMO (農村型地域 運営組織)		将来ビジョン策定・組織体制づくり ※山江村未来づくり協議会（仮称）	拠点事業企画・準備	運営開始